

聖書における夢と幻

神のコミュニケーションと識別への呼びかけ

聖書中心の研究

導入

神は救済の歴史を通して、夢や幻を、ご自身の民とコミュニケーションをとる一つの方法として、主権的に用いてこられました。今日では、夢や幻は啓示の主要な手段ではありませんが、導き、警告、励まし、そして神の計画を明らかにするという特定の目的を果たしてきました。

「終わりの日に、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。すると、あなたがたの息子や娘は預言をし、若者は幻を見、老人は夢を見るであろう。」—使徒行伝 2:17 (ESV)

聖書の言葉：夢、幻、そして「夜の幻」

聖書では、関連性はあるものの異なる複数の用語が用いられている。

夢

ヘブライ語: חלום (chalom) —睡眠中の体験。

ギリシャ語: ὄναρ (onar)

ビジョン

ヘブライ語: חֲזוֹן (チャゾン)、מַרְאֵה (mar'ah)、または חִזְיוֹן (chizzayon)。

ギリシャ語: ὄραμα (ホラマ) と ὀπτασία (オプタシア)。

「夜の幻」—夜間の啓示的な体験（ヨブ記 33:15、創世記 46:2、ダニエル書 2:19、7:1）。

「夜に神を見る」ことと睡眠中の神の訪れ

聖書が神が夜に訪れたり、語りかけたりすると述べている場合、それは限られた、しかし確かに存在する神との出会いを指し示しており、多くの場合、夢や夜の幻を通して起こる。

詩篇 17:3 (ESV)

「あなたは私の心を試した。夜な夜な私を訪ね、私を試した。しかし、あなたは何も見つけられないだろう…」

ヘブライ語: לַיְלָה פָקַדְתָּ (paqadta laylah)。神は夜中にダビデを積極的に調べ、あるいは訪れた。これ

は夜の夢や幻と一致する。預言者（使徒行伝 2:30）であったダビデにとって、これは眠っている間に神から親密な啓示を受けたことを示している。

詩篇 17:15 (ESV)

「わたしは、正義をもってあなたの御顔を仰ぎ見るであろう。目覚めたとき、わたしはあなたの姿に満足するであろう。」

ヘブライ語: פָּנִים (panim) および תְּמוּנָה (temunah)。ダビデは、目覚めたときに神の顔を見るという希望を表明し、究極の神のビジョンを指し示している。

黙示録における聖書的な区別

民数記 12:6-8 (ESV)

「あなたがたの中に預言者がいるなら、わたし主は幻の中で彼に自分を現し、夢の中で彼と語る。しかし、わたしのしもべモーセにはそうしない。わたしは彼と直接、はっきりと、謎めいた言葉ではなく語るのだ。」

ほとんどの啓示は חֲזוֹן (チャゾン) または חֲלוֹם (チャローム) を通してもたらされました。モーセは独特の直接的なコミュニケーション פֶּה אֶל פֶּה — peh el peh) を持っていました。

夢と幻覚の例（夜間の幻覚を含む）

旧約聖書

- ヤコブのはしごと夜の出会い（創世記 28:12、46:2）
- 族長ヨセフの象徴的なカロムの夢
- ダニエルの夢と夜の幻覚
- ダビデの夜の訪問と、神の御顔を見るという希望（詩篇 17:3、15）

新約聖書

- マリアの夫ヨセフ — 夢の中で天使からの明確なメッセージを受け取る（マタイによる福音書 1:20; 2:13, 19）
- ペテロの象徴的なホラマの幻（使徒行伝 10 章）
- パウロの夜の幻視（使徒行伝 16:9）

天使が登場する夢 — 夢（チャローム／オナール）や夜間の幻視を通して伝えられる。

預言、啓示、そして教会の秩序（コリントの信徒への手紙一 14 章）

コリント人への手紙第一 14 章は、啓示（夢や夜の体験からの啓示を含む）が教会を建て上げ、吟味され（「他の人々は言われたことを吟味しなさい」—29 節）、秩序正しく作用しなければならないことを示しています。

識別力：夢、幻、啓示を吟味する

コロサイ人への手紙 2:18 (ESV)

「禁欲主義や天使崇拜を主張し、幻視について詳しく語り、肉欲的な思いに駆られて根拠もなく高慢になっているような者に、あなた方を貶めさせてはならない。」

偽教師たちは幻や天使の教えを利用して、人々の傲慢さを煽った。これではキリストにしっかりと留まることはできない。

その他の重要な識別箇所

- 申命記 13:1-5
- ヨハネの手紙一 4:1
- テサロニケ人への手紙第一 5:19-22
- コリント人への手紙第二 11:14
- マタイによる福音書 7:15-20

実技試験

1. それは聖書全体と一致するのか？
2. それはイエス・キリストを称えているか？
3. それは謙虚さと愛を生み出すのか、それとも傲慢さと分裂を生み出すのか？
4. それは、敬虔な助言と聖霊の実によって裏付けられていますか？
5. それは教会を築き上げるだろうか（コリント人への手紙第一 14 章）？

「面と向かって」の意味と神を直接見るということ

モーセの特別な体験

「対面」＝ヘブライ語 אֵלֶּי פָּנִים וּפָנִים אֵלַי (パニム・エル・パニム)。直接的で親密なコミュニケーション。旧約聖書の預言者の中では独特ですが、まだ限定的です（出エジプト記 33:20）。

イエスが持つ父なる神についての独特かつ直接的な知識

イエスは永遠の神の子として、モーセの経験さえも超える、父なる神との独特で直接的かつ媒介を介さない関係を持っている。

ヨハネによる福音書 1:18 (ESV)

「神を見た者は一人もいない。父の傍らに在る独り子である神が、神を明らかにしたのだ。」

イエスだけが、最も完全な意味で父なる神を見たことがある。なぜなら、イエスは神の子だからである。

ヨハネによる福音書 6:46 (ESV)

「神から出た者以外に、父を見た者はいない。その者だけが父を見たのだ。」

父なる神を直接、完全に見たのはイエスだけだ。

マタイによる福音書 11:27 (ESV)

「父はすべてのことをわたしに委ねておられる。父のほかには、子を知る者はなく、子のほかには、父を知る者はなく、また、子が父を明らかにしようと選んだ者以外には、父を知る者はいない。」

父と子の間には、他に類を見ない、相互的で完全な知識が存在する。イエスは父を啓示するが、それはイエスだけが真に父を知っているからである。

イエスが父なる神について知っていることは、永遠かつ存在論的なものであり（イエスは神である）、モーセが受けたような単なる啓示によるものではありません。だからこそ、イエスは「わたしを見た者は父を見たのだ」（ヨハネ 14:9）とすることができたのです。

すべての信者にとっての未来への希望

コリント人への手紙第一 13:12 (ESV)

「今は鏡を通してぼんやりと見ているが、その時には顔と顔を合わせて見るであろう。今は部分的に知っているが、その時には、私が完全に知られているように、私も完全に知るであろう。」

ギリシャ語: πρόσωπον πρὸς πρόσωπον (プロソポンプロソポン)。永遠に、すべての信者は、モーセよりも偉大で、イエスを通して可能となる、神との完璧で妨げられることのない交わりを持つ

ことになります。

キリストの至上性と聖書

「昔、神は様々な時、様々な方法で預言者を通して私たちの先祖に語りかけましたが、この終わりの時代には、御子を通して私たちに語りかけられました…」

—ヘブライ人への手紙 1:1-2 (ESV)

すべての夢、幻、預言的な啓示は、キリストと聖書に従属するものでなければならない。

今日の信者のために

神は主権者であり、夢や夜の啓示を与えることもあります。しかし、それらは通常の導きの手段ではありません。健全なキリスト教生活は、聖書、祈り、聖霊の啓示、そしてあらゆる啓示が吟味される集会としての教会を中心としています（コリント人への手紙第一 14 章）。

結論：祝福された希望

いつの日か私たちは神の御顔を仰ぎ見て、その似姿に完全に満足するでしょう（詩篇 17:15）。私たちは神と顔を合わせて、はっきりとその姿を目にしましょう（第一コリント 13:12）。この世で父なる神を完全に見たのはイエスただ一人であり、イエスを通して私たちはいつの日か神を完全に知るようになるのです。

振り返りの質問

6. 詩篇 17 篇 3 節と 15 節はどのように関連しているのでしょうか？
7. イエスが父なる神について知っていたことが、モーセと比べてどのような点で独自性を持っているのか？
8. コリントの信徒への手紙一 14 章は、教会における啓示の扱い方について、どのような指針を示しているのでしょうか？
9. いつか神と「顔を合わせて」会えるという約束は、あなたにとってどのような励みになりますか？

聖書の引用はすべて ESV® 聖書からのものです。許可を得て使用しています。無断転載・複製を禁じます。